

山崎 和代 ◯やまさき かずよ
 社会福祉法人西宮市社会福祉事業団
 訪問看護課 課長
 西宮市訪問看護センター 管理者
 認定看護管理者

西宮市訪問看護センター(兵庫県西宮市)は3カ所のサテライト事業を展開するステーション。山崎和代さんに、管理者としての日々の思い・考えを語っていただきます。

8

コロナ禍での訪問看護

◆業務の優先順位をつける

当センターでは、コロナ感染拡大後、自宅での看取りを望む人や、在宅療養への移行を希望する重症患者からの訪問依頼が増えました。そのため、災害発生時におけるBCPにのっとり利用者のトリアージを実施し、軽症者・状態安定者・重度者に分け、それぞれに適した訪問回数にすることにしました。それに同意が得られた場合は、ケアマネジャーにケアプランの変更を依頼しますが、すべての利用者に納得してもらうのは難しいのが現状です。

また、デイサービス等の休止に伴い、ケアマネジャーから訪問回数を増やしてほしいとの依頼を受けることがあります。しかし、業務の優先順位を踏まえて、現在は必要最低限の訪問看護を提供することとし、お断りしています。

◆スタッフがコロナに感染

4月、地域のデイサービスでクラスターが発生しました。そこには当センターの利用者も多く通っていました。その後、感染は家族や関係者にも広がっていき、当センターのサテライトのスタッフ2人もコロナに感染しました。2人とも利用者宅で開催されたサービス担当者会議で感染したことがわかりました。それから数日後、同サテライトのスタッフ2人がPCR検査で陽性判定を受けました。事業所の滞在時間は1日10分程度でしたが、職場内感染が疑われ、

サテライトの訪問看護は10日間中止となりました。またその際、保健所から「ウイルスで汚染されたマスクに触れた手で、目や鼻を触った可能性がある。再度、スタッフにマスクの正しい使い方を徹底する必要がある」と指導されました。

休止している間は重症度の高い利用者に関し、他のサテライトスタッフが訪問看護を実施し、それ以外の利用者には電話等で状況を説明して訪問休止の同意を得ました。さらに、状態確認や緊急時の対応については、主治医やケアマネジャー等に協力を依頼しました。落ち着かない日々が続きましたが、特に大きな問題は起こらず休止期間は終了しました。

当センターの利用者の中にもそのデイサービスに通っていた高齢女性がコロナに感染したことが確認されました。その女性は夫と2人暮らしで認知症を患っていました。保健所より「12日間の状態観察」の指示を受けて自宅待機となったため、私たちは電話と訪問で状態を確認することとし、また、民生委員にも声かけの協力を依頼しました。以降も、陽性者が次々と確認されましたが、休止することはなく、訪問看護を提供し続けています。

*

非常事態時には、これまでの「当たり前」を見直すことが求められます。管理者は、限られた資源をいかに有効活用するかを考えておく必要があります。



illustration TOKUDOME